

手取川濁水対策

今年5月初旬、石川県の手取川において著しい濁りが観測されました。

原因は、手取川上流中ノ川（仙人谷）において、斜面崩落が発生し、崩落した土砂が流出したことによるものです。崩落地は、県境に近い標高1,400mの急峻なV字谷で、近隣に道もないため、調査や対策の実施に際しては空中からヘリコプターに頼らざるを得ないような現場です。

林野庁石川森林管理署、国土交通省金沢河川国道事務所、北陸農政局、石川県、関係市町など関係機関は、手取川等濁水関係連絡会を立ちあげ、被害状況や農業、漁業等への影響、対応状況等の情報を共有し各機関による対応が円滑に進むよう体制作りをしました。

手取川は、霊峰白山を水源とし日本海に注ぐ延長約72kmの河川で、流水は農業用水、上水道、工業用水、電源開発など幅広く活用され、流域の地下水を育んできた県内でも重要な河川です。手取川扇状地の扇頂部に位置する白山頭首工では、最大約56m³/sの農業用水を取水し、手取川左右岸に樹枝状に張り巡らされた農業用水路を通じて白山市ほか4市1町の水田約7,400haに供給されています。

濁りが発生した当初は、田植えの時期と重なり営農への影響が懸念されましたが、石川県、関係市町、JAなどがいち早く水稲管理作業について注意喚起し、水田への土砂流入を最小限にとどめたことから大きな被害には至りませんでした。

しかしながら、農業用水路には例年を超える土砂が堆積し、維持管理の負担が増えているほか、濁りが長期化した場合には給水栓、取水ゲート、用排水機場、小水力発電施設等の不具合が懸念されます。



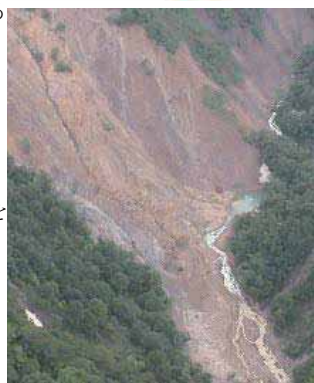
濁度観測の状況

北陸農政局では、手取川濁水対策検討チームを立ちあげ、有識者同行のもと現地調査を実施し、継続的に農業用水路の濁度を監視することにより営農や農業水利施設への影響に備えることとしました。

濁度の監視は、左右岸の代表的な水路を選定し、上流、中流、下流部の計7地点11ヶ所において、毎週1回の定期観測と降雨後濁度が上がった時に観測しています。

流されてくる土砂は、粘土化し粒子が細かいため、一度濁ると収まるまで2～3日かかります。また、堆積した土砂には粘性があることから撤去も容易ではありません。

手取川の崩落地では9月中旬完了を目指して応急対策工事が進められ、関係機関においてもできる限りの対策を検討・実施しているところです。



斜面崩落現場（中ノ川仙人谷）
[写真提供：近畿中国森林管理局]

西北陸土地改良調査管理事務所 河北潟分室の紹介

当分室は、国営施設応急対策事業を実施するために平成27年8月1日に開設され、国営河北潟干拓事業（昭和38年度～昭和60年度）により造成された、干拓地内の4揚水機場の更新を行います。

事務所は、内灘町役場4階会議室を間借りし、職員3名（保全整備課長、保全整備係長、保全設計係長）とパート職員1名の計4名の小所帯ですが、河北潟が一望できる事務室となっています。



事務室から河北潟を望む

去る8月24日には、内灘町役場において開所式が挙行政され、事務所入り口にて、雑賀前北陸農政局長と河北潟地区国営土地改良事業推進協議会長である山野金沢市長により看板が上掲された後、1階市民ホールに関係者40名が見守るなか盛大に開所式が執り行われ、工事の安全と一日も早い事業完了を目指し、本格的に事業がスタートしました。

◎国営施設応急対策事業「河北潟地区」

本事業は、国営造成農業用排水施設の不測の事態による応急対策と、発生原因の調査結果に基づく施設の機能保全整備を行うほか、老朽化による機能低下施設に対し長寿命化計画を作成し、機能保全整備を行い、農業生産性の維持と農業経営の安定に資する事を目的としています。

当地区の対象施設は、供用開始から30年以上が経過し老朽化が進行しているとともに、水質を原因とする不測の事態（ポンプ停止・起動渋滞・損傷）が発生していることから、施設機能診断調査・原因究明調査を基に以下の事業を実施します。

【事業概要】

関係市町	石川県金沢市、かほく市、河北郡津幡町、河北郡内灘町
受益面積	851ha
事業工期	平成27年度～平成32年度
主要工事	干拓地内の4揚水機場のポンプ・電気設備の更新 （東部第1揚水機場、東部第2揚水機場、西部揚水機場、南部揚水機場）



河北潟分室のメンバー



東部第1揚水機場